

本報告書は、[令和4年1月20日に公表した報告書](#)を、[令和4年3月24日に公表した正誤表](#)より訂正したものです。

船舶インシデント調査報告書

令和3年12月22日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航阻害
発生日時	令和3年5月19日 06時52分ごろ
発生場所	広島県尾道糸崎港第4区 尾道灯台から真方位303° 240m付近 (概位 北緯34° 24.2′ 東経133° 11.6′)
インシデントの概要	旅客船ニューびんごは、離棧直後に機関室から異音を発生し、再着棧した後、主機の運転ができなくなり、運航が阻害された。
インシデント調査の経過	令和3年5月24日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	旅客船 ニューびんご、28トン 131783、備後商船株式会社（A社） ディーゼル機関、4サイクル、出力419kW、回転数毎分 1,850、6気筒、ボア150mm
乗組員等に関する情報	船長、五級（航海） 機関長、五級（機関）（履歴限定、機関限定）
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏
インシデントの経過等	<p>本船は、船長及び機関長が乗り組み、旅客5人を乗せ、広島県尾道市福田港に向け、離棧した直後、機関室から異音が発生した。</p> <p>本船は、再着棧し、船長が携帯電話でA社運航管理者に主機を停止して点検作業を行うので運航を中止したい旨の連絡を行い、旅客を別の旅客船に乗り換えさせる目的で下船させた。</p> <p>本船は、造船所手配のタグボートにえい航されて造船所の棧橋に着棧した。</p> <p>本船は、本インシデント後、造船所機関修理担当者によって主機の解放点検が行われ、主機の船尾から順に番号が付された4番シリンダのクランク軸内部の潤滑油経路の一部にカーボン及びスラッジ等が付着し、同シリンダの潤滑油の供給が少なく、シリンダライナ、ピストン及びクランクピン軸受に焼付きを生じていることが認められた。</p> <p>主機の潤滑油は、クランク軸内部の潤滑油経路を通じて軸受、シリ</p>

	<p>ンダ等の各部に供給されるようになっていた。</p> <p>本船は、令和2年10月の定期検査で主機の解放点検を行った際、4番シリンダのシリンダライナ及びピストンリングの異常摩耗及び同リングの作動等の不具合等は認められなかった。</p> <p>機関長は、令和3年4月に主機の潤滑油の全量交換、主機潤滑油こし器の掃除及びカートリッジ式エレメントの交換を行った際、カーボン、金属粉等が認められなかったため、クランクケースを解放し、シリンダ内の潤滑油量の状況及び焼付き等異常がないことの確認を行わなかった。</p> <p>A社は、本船の主機4番シリンダへの潤滑油の供給が阻害された原因について、船齢、主機修理費用及び本船の代替船が建造中であることなどを考慮し、調査及び修理を行わなかった。</p>
<p>分析</p>	<p>本船は、クランクケースの解放点検が行われていない中、離棧後、主機のクランク軸内の潤滑油供給経路の一部にカーボン及びスラッジ等が付着し、4番シリンダへの潤滑油の供給が阻害されたことから、同シリンダのシリンダライナ、ピストン及びクランクピン軸受に焼付きを生じて主機の運転ができなくなり、運航が阻害されたものと推定される。</p> <p>本船は、定期的な解放点検及び保守整備が行われていたものの、主機のクランク軸内の潤滑油供給経路の一部にカーボン及びスラッジ等が短期的に付着し、4番シリンダへの潤滑油の供給が阻害されたものと考えられるが、潤滑油の全量交換、主機潤滑油こし器の掃除及びカートリッジ式エレメントの交換を行った際、シリンダ内の潤滑油量の状況及び焼付き等異常がないことの確認を行っていなかったこと、また、本インシデント後、調査及び修理等を行わなかったことから、潤滑油供給経路が短期的に詰まった状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本インシデントは、本船が、クランクケースの解放点検が行われていない中、離棧後、主機のクランク軸内の潤滑油供給経路の一部にカーボン及びスラッジ等が付着し、4番シリンダへの潤滑油の供給が阻害されたため、同シリンダのシリンダライナ、ピストン及びクランクピン軸受に焼付きを生じて主機の運転ができなくなったことにより発生したものと推定される。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社及び機関長は、潤滑油の全量交換及び主機潤滑油こし器の掃除等を行った際、シリンダ内を点検し、潤滑油量の状況及び焼付き等異常がないことを確認すること。